

## 2016 年度日本海洋学会秋季評議員会 議事録

日時 2016 年 9 月 12 日 (月) 18:00~19:50

場所 鹿児島大学郡元キャンパス 2 号館 211 号室

出席者 日比谷会長、神田副会長、秋友、安藤、石坂、磯田、磯辺、市川(香)、市川(洋)、伊藤、岩坂、上、植原、植松、江淵、大島、岡、小川、郭、加藤、蒲生、川合、河野、河宮、轡田、久保田、倉賀野、根田、齊藤(誠)、齊藤(宏)、須賀、杉崎、武岡、武田、津田、中田、中野、中村 (大会事務局長)、西岡、羽角、原田、広瀬、深澤、本多、升本、松野、三寺、見延、安田、山中、吉川各評議員 (51 名)  
山城西南支部長 (大会実行委員長)、藤井環境科学賞選考委員長、速水海洋環境問題研究会会長、門谷沿岸海洋研究会会長、渡辺ブレイクスルー研究会会長、小椋幹事、鈴木幹事、東塚幹事、毎日学術フォーラム(小野、平坂)

委任状 小畑、久保川、花輪、古谷、道田評議員(5 名)

開会に先立ち、集会担当幹事から出席者数の確認があり、評議員会細則第 3 条の規定により、評議員会の成立要件を満たしている旨報告があった。引き続き日比谷会長から発言があった。

### 1. 会長挨拶 (日比谷会長)

鹿児島大学を中心とする大会実行委員会へのお礼が伝えられた。

第 9 回海洋立国推進功労者としての植松光夫会員、見延庄士郎会員の表彰が報告された。文部科学大臣表彰科学技術賞として大島慶一郎会員、蒲生俊敬会員が、文部科学大臣表彰若手科学者賞として田村岳史会員が表彰されたことが報告された。

G7 茨城・つくば科学技術大臣会合で採択されたつくばコミュニケにおいて、「海洋の未来：～科学的根拠に基づく海洋及び海洋資源の管理、保全及び持続可能な利用に向けて～」が記載されたことが報告された。

2016 年度春季大会に引き続き、秋季大会でもセッション制が導入にされた。若手会員を中心に呼びかけたところ、31 のセッション提案があり、参加者数も多数あったことが報告された。

また、2015 年秋季大会評議員会では、2017 年度日本海洋学会春季大会は JpGU-AGU 合同大会と合流して開催することが認められ、2018 年度以降は 2017 年度の結果を見てから改めて議論することになり、この結果について別途メーリングリストを通じて周知してきたことが報告された。

また、水産海洋学会、日本プランクトン学会との連携を強化し、海洋生物学の活動を活発化させるため、2017 年 3 月に合同でシンポジウムを開催することを計画していることが報告された。海洋生物学研究会の設立について提案があり、幹事会としてはサポー

トしていくことが決められ、本日、審議頂きたいことが報告された。

マスタープラン 2017 の新規提案に向けて、水産・海洋科学研究連絡協議会および日本古生物学会と共同で大型研究計画「深海アルゴフロートによる気候・生態系予測の高精度化」を提案し、5月のJpGU 連合大会における口頭発表審査を経て、大型研究計画として採択され、重点大型研究計画候補に残ったことが報告された。

## 2. 大会委員長挨拶（山城大会実行委員長）

約 20 年ぶりに鹿児島地区で秋季大会が開催され、31 件のセッションが提案され、9 月 12 日時点で、事前申し込み 394 名、当日申し込み 34 名、合計 428 名の参加があったこと、316 件の発表（うち 96 件がポスター）が予定されていることが報告された。

## 3. 報告事項

### 1) 会務報告

庶務（東塚幹事）

2016 年度 1 月から 7 月の会員異動状況について報告があった。2016 年 7 月現在の会員数は 1669 名で、62 名減少したことが報告された。

春季・秋季大会のシンポジウム等の開催・共催および協賛・後援等の状況について報告があった。

日本海洋学会会員名簿を発行し会員に送付したこと、WEB システムを導入し前回調査時よりも多くの会員に情報更新して頂いたこと、6 企業／団体から広告出稿依頼があったことが報告された。

編集

#### ① JO（石坂編集委員長）

72 巻 4 号までの発行状況について報告があった。Hot spot 特別セッション、K2S1 特別セッションのオンライン印刷が終了したこと、Earthquake 特別セッションも残り 10 本は第 2 弾とすることが報告されるとともに、新規 2 件の特集セッションが予定されていることが報告された。

また、査読では却下された論文を編集委員会のミスで受理してしまい、Online First に掲載されてしまったことについて、著者の許可を得て、掲載取りやめ（retraction）としたことを Online First と 10 月号に掲載することが報告された。

初めての Open Access Article が発行されたことが報告された。

論文投稿・受理状況、インパクトファクターの状況について報告があった。また、JO は 2016 年をもって発刊 75 周年を迎えたことが報告された。

#### ② 海の研究（市川編集委員長）

第 25 巻 3 号、4 号、号を発行したことが報告された。また、現在の投稿・編集状況が報告された。特集号として「鉛直混合と北太平洋中層水」の申請があったこ

とが報告された。

③ JOS ニュースレター（津田編集委員長）

6巻1号、2号の刊行を行ったことが報告された。在任中に、出版費用を半減したこと、学界動向、若手のコラムを開始したこと、報告者の写真を掲載するようにしたこと、などが報告された。

研究発表（鈴木幹事）

2017年度春季大会が、2017年5月20日～25日に幕張メッセで開催される JpGU –AGU 2017 Joint Meeting 内で開催すること、大会実行委員長として原田 JpGU 担当幹事が務め、大会実行委員会は関連業務担当幹事および学会選出連合プログラム委員の計7名で構成され、従来の事務局長は置かず、任期は2017年3月までとし、4月以降は新幹事に引き継ぐことが報告された。

各種申し込みは JpGU に直接申請すること、幹事会でゼネラルセッション申請を含め、提案セッションの調整を進めることが報告された。

賞選考

① 学会賞・岡田賞・宇田賞（見延委員長）

選考過程について報告があった。

② 日高論文賞・奨励論文賞（河宮委員長）

日高論文賞の選考過程について報告があった。

③ 環境科学賞（藤井委員長）

選考過程について報告があった。

選挙管理（山中幹事）

役員選挙の年にあたっていること、選挙管理委員会の設置、スケジュールについて報告があった。

広報委員会（原田委員長）

広報委員会の活動として、講師派遣事業「海の出前授業」を開始したことが報告された。講師派遣事業の講師の会員との情報共有を行ったこと、若手向けイベントとしてキャリアパス支援ブースを開いていること、秋季大会のプレスリリースを行ったこと、JpGU 連合大会でブース展示を行ったこと、が報告された。

海洋環境委員会（鈴木委員長）

昨年度および今年度採択された青い海助成事業の開催および準備が進んでいること、予備費として保持しているものについても有効に利用したいことが報告された。

海洋環境問題研究会（速水研究会会長）

有明・八代のセッションが開催されること、研究会の会合の開催予定が報告された。また、今後の研究会の開催を JpGU 連合大会時に行うか、秋季大会時のみに行うか検討を行う予定であることが紹介された。

#### 沿岸海洋研究会（門谷研究会会長）

会費を値上げしたが、会員の大きな減少が無かったことが報告された。秋季大会のシンポジウムでは 50 名の参加があった。来年度以降の春季のシンポジウムは、JpGU でのプレゼンスを沿岸海洋研究会として示していく方針としていることが紹介された。また、来年度については、海洋生物学研究会の 3 月のシンポジウムに合流する可能性があることが報告された。沿岸研究の発刊とシンポジウムがリンクしているため、対応を検討中であることが報告された。

#### 教育問題研究会（轡田研究会会長）

会員数が 1 名増えて 48 名になったことが報告された。資料に基づき、2016 年度の活動内容および計画について報告があった。「小学校理科単元「海のやくわり」の提案」の文部科学省への提出に立ち会ったことがあった。「一家に一枚」ポスター企画 WG を設置したこと、「東京都理数系教員指導力向上研修」に講師を派遣したこと、JpGU 教育検討委員会教育課程小委員会委員の交代が報告された。また、秋季大会時の海のサイエンスカフェ、COSIA の体験ワークショップ、一般セッションおよびイベント「海洋教育・アウトリーチ普及活動の実践と課題」、研修センター海洋教育実践に関するポスターセッション」の開催が報告され、今後の予定が紹介された。

#### 西南支部（山城支部長代理中村評議員）

支部会の開催予定について報告された。来年度から九州大学に事務局が移る予定であることが報告された。

#### ブレイクスルー研究会（渡邊研究会会長）

ナイトセッションの開催が報告され、2017 - 18 年の活動予定について紹介された。

#### 海洋観測ガイドライン編集委員会（河野委員長）

英語版の出版が遅れており、3 割程度の原稿が集まっていること、集まっているものから発行を進める予定であることが報告された。

#### 2017 年度以降の研究発表大会にかかわる諸問題検討 WG（神田副会長）

2017 年度春季大会の実行委員会の体制、セッション提案の調整の実行、春季大会時に行っていた委員会等（11 個）を JpGU 連合大会時に開催するのかそれ以外の時期に開催するのか後日確認すること、水産海洋学会・日本プランクトン学会とのシンポジウム開催、を検討したことが紹介された。秋季大会の充実も検討していることが紹介された。

## 2) 学界関連報告

#### 学界動向（神田副会長）

9 月の JOS ニュースレターに詳細を掲載していること、GEOTRACES、PICES、SCOR、Future Earth、SIMSEA などの学界動向について報告があった。

日本地球惑星科学連合（原田幹事）

2016年度のJpGU連合大会の報告があった。2017年のJpGU連合大会の予定として、AGUとのジョイントであること、5月20～25日の6日間になったことが報告され、セッション提案等のスケジュールが紹介された。これに加え、日比谷会長からJpGUの役員選挙結果について報告があった。

水産・海洋学研究連絡協議会（津田幹事）

日本海洋政策学会が加わったことが報告された。11月に予定されているシンポジウムの開催が紹介された。

その他

「海の温暖化」の出版について（河宮刊行委員長）

出版予定について紹介があり、刊行助成についてお礼が述べられた。

#### 4. 審議事項

##### 1) 2017年度秋季大会の開催について（鈴木幹事）

2017年10月13～17日に仙台国際センターにて開催されることが提案され、承認された。大会実行委員長は花輪公雄会員、副委員長は市川忠史会員、事務局長は須賀利雄会員。

##### 2) 海洋生物学研究会について（齊藤幹事）

海洋生物学研究会の設立について、趣意書および会則の説明がなされた。議論の結果、会則の会員の特典に関する条目を削除し、一部修正の上、承認された。

同時に、杉崎宏哉会員が海洋生物学研究会会長に任命された。杉崎宏哉会員から挨拶があった。